

かたよらない心　こだわらない心　とらわれない心　ひろく  
ひろく　もつとひろく　これ般若心経　空の心なり



## 高田 好胤

高田好胤は奈良薬師寺やくしじの小僧から管長となり、般若心経はんんにやしんぎょうの百万卷写経しやきょうかんじん勸進によつて、同寺の復興再建を成し遂げた人です。

百万卷写経勸進とは、百万人の人びとに写経とともに千円の奉納をしてもらい、それによつて金堂を再建する計画です。十億円寄付してもよいという大手の会社もありました。しかし好胤は写経によつて、多くの人の心の中に信仰心が生まれ、その結果として、お堂も建つならば、そのほうが仏さまの心みこころにかなうことにならうと考えたのです。

好胤自身も著書や講演の収入をすべて奉納します。とくに講演は一万回を目差し、写経を勧めて、全国を走り回りました。講演先で倒れ入院したこともありま  
す。この病やまいが三十年後、好胤の命とりになるのです。

西岡常一つねかずという寺社大工の棟梁とうりょうを迎え、用材の檜ひのきは台湾の良材を輸入しまし  
た。千年から二千五百年の巨木三百本、一本一本に香をたき、お経をあげ伐採ばっさい  
したものです。

台湾の材木会社の劉社長りゅうは、仏さまのお堂になるのだから、作業の時に足を  
かけないよう人夫に命じました。今の日本人が忘れてしまっている日本の心が、  
台湾に生きていると好胤は感動しました。

好胤は「仏法の種をまくことが自分の使命」であると考え、修学旅行の生徒た  
ちへの法話に力を入れました。十八年もの長きにわたり、そのユーモアたっぷり  
で分かりやすい法話は「青空法話」とも呼ばれて人気を呼び、好胤の法話を聞い  
た生徒は、六百万人以上にもものぼると言われています。その話術は、のちの人間

国宝である落語家の三代目、桂 米朝べいちようも参考にしたほどでした。

好胤の志は門弟をはじめ多くの人に受け継がれ、その没後、五年めの平成十四年春、奈良薬師寺は創建当時の姿を見せ、金堂・西塔・回廊・大講堂の全部の復興が完成します。

※高田 好胤（たかだ こういん・平成十年（一九九八年）没・七十四歳）

◎ 金堂を再建するために百万人の人びとに写経とともに、千円の奉納を受ける。この高田好胤の「志」の大きさに感心。

◎ 「仏法の種をまくことが自分の使命」と修学旅行の生徒たちに法話、その「青空法話」を聞いた生徒は六百万人以上とは驚きました。

（M生）